

「新入生コンピュータセキュリティセミナー」オンデマンド化について

見崎研志, 八木秀樹, 岩田一

早稲田大学メディアネットワークセンター

kmisaki@aoni.waseda.jp, hideki@mnc.waseda.ac.jp, hajimei@aoni.waseda.jp

1. 新入生セミナー実施形態の変遷

早稲田大学では、1997年度から新入生を対象とした「新入生コンピュータセキュリティセミナー（以降、新入生セミナーとする）」を実施している。本セミナーでは、情報化社会に潜む危険性から学生を保護することを目的に、インターネットの適切な利用方法や情報倫理について講義している。また、情報倫理ばかりでなく、本学が提供する学内向けネットワークサービスの利用方法についても同時に説明している。

1997年度から開始された新入生セミナーであるが、学生のニーズや情報化社会の発展に伴い、その受講形態や講義内容には年々改良が加えられている。受講形態としては、2002年度にCD-ROMを用いた自習形式への切り替えが試みられたものの、1997年度から2004年度までは基本的に座学形式のセミナーのみが実施されてきた（小野寺 2003, 松山 2005）。

2005年度には、従来まで在学生のみを対象に行われていたWebによる科目登録が新入生でも可能になり、新入生セミナーを座学形式のみで実施することに問題が生じた。つまり、新入生にWeb科目登録を可能にさせたことにより、入学前の早い段階から情報倫理教育を施す必要性が生じてきたのである。

しかしながら、入学前に座学形式の大規模なセミナーを実施することは困難であった。そのため、2005年度より受講期間内であればいつでも受講できるオンデマンド形式の新入生セミナーが求められ始めた。

オンデマンド形式の新入生セミナーを最初に実施したのは2005年度である。しかしながら、この段階において全ての新入生セミナーをオンデマンド化したわけではない。2005年度新入生セミナーでは、座学形式のセミナー未受講者のみを対象にオンデマンド形式のセミナーを実施した。本学における最初

のオンデマンド形式の新入生セミナーであったが、学生に対して大きな混乱を招くことはなかった。

2005年度の新入生セミナーオンデマンド版で大きな混乱が生じなかったことや前期授業開始までの時間的制約もあり、2006年度には新入生セミナーの実施形態を従来の座学形式からオンデマンド形式を中心としたものに移行させた。ただし、PCの操作に慣れていない初心者を対象としたフォローアップセミナーでは、従来通り座学形式によるセミナーを実施した。

2. 2006年度新入生セミナーの実施

2006年度新入生セミナーは、新入生セミナーオンデマンド版の受講及び、受講内容を理解しているかどうかを確認するための情報倫理テストによって構成した。セミナーの内容は、Waseda-net 編、セキュリティ編、情報倫理編の3部構成で実施した。Waseda-net 編では、本学が提供する学内向けネットワークサービスとコンピュータ教室の利用に関する説明を行った。セキュリティ編では、コンピュータを使う上で知っておくべきセキュリティに関する説明を行った。そして、最後の情報倫理編では、ネットワークを利用する上でのマナーや心構えについての説明を行った。セミナー全体の所要時間は30分程度であった。

学生には、オンデマンドによる新入生セミナー受講後、情報倫理テストを受験し合格することを義務付けた。また、セミナー終了後、アンケート調査を実施した。現在、アンケート調査から得られた学生の意見をもとに、今後のセミナー内容および実施形態を如何にして改善していくべきかを検討している。

3. 新入生セミナーオンデマンド化の影響

新入生セミナーオンデマンド化による変化を受講

者数の変化から考察する。新入生セミナーが開始された1997年度から2006年度までの受講者数、欠席者数および受講率の変化を図1に示す。なお、先述したように2002年度はCD-ROMを用いた自習形式への切り替えが試みられたため座学形式のセミナーは実施されていない。

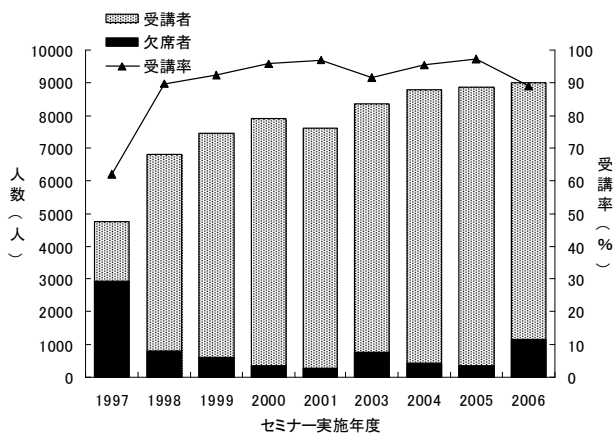


図1 年度別セミナー受講者数、欠席者数および受講率

図1から、セミナー実施形態の中心をオンデマンド形式に移行した2006年度のセミナー欠席者（未受講者）の人数が過去2番目に多くなっている。また、受講率に換算しても過去2番目の低さを記録した。

セミナー終了後実施したアンケート調査の自由記述回答から、このような現象が発生した原因としてオンデマンドによるセミナーの告知が上手くいかなかったことが推測される。

4. アンケート調査結果の結果と考察

新入生セミナー受講後に、セミナーの内容が十分に理解できなかった、或いは、PCの操作に不安があると自己申告した学生を対象にフォローアップセミナーを実施した。そして、フォローアップセミナー終了後アンケート調査を実施した。以下、アンケート調査の結果から2006年度オンデマンドセミナーを考察していく（紙面の都合上一部抜粋）。

オンデマンドセミナーの難易度についての回答結果を図2に示す。

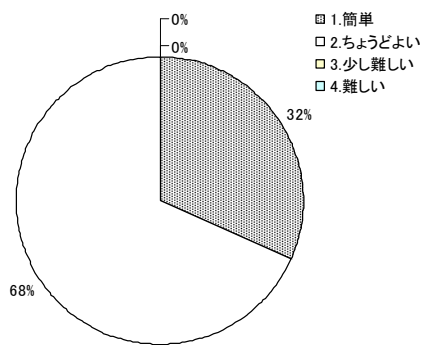


図2 オンデマンドセミナーの難易度

簡単32%、ちょうど良いが68%という結果になり、難しいと感じた学生はひとりも存在しなかった。このことから、セミナーの難易度自体は適切であったと推測される。

オンデマンドセミナーの進行速度についての回答結果を図3に示す。

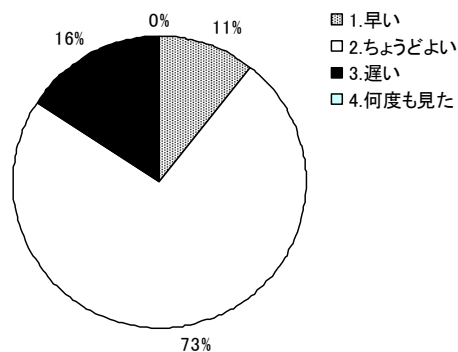


図3 オンデマンドセミナーの進行速度

ちょうど良いという回答が73%を占めていることから、セミナーの進行速度は適切であったと推測される。

PC利用経験の有無についての回答結果を図4に示す。

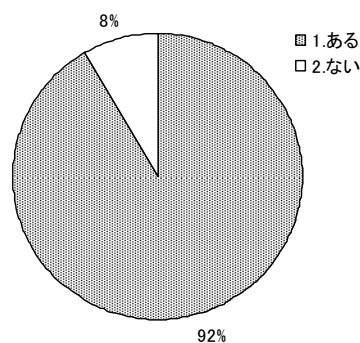


図4 PC利用経験の有無

92%が PC の利用経験ありと回答している。このことから、情報化社会の発展を再認識するとともに、情報倫理教育の重要性および必要性を強く感じる。

PC 利用経験年数についての回答結果を図 5 に示す。

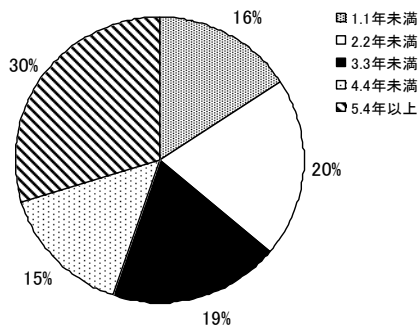


図 5 PC 利用経験年数

PC の利用経験年数が 3 年以上という回答が過半数を占めている。PC へ操作に不安を感じる学生は今後も減少していくことが予測される。しかしながら、利用経験が 1 年未満と回答した者が 16%存在する。それほど低い割合ではないため、フォローアップセミナーの必要性も感じる。

PC の利用目的についての回答結果を図 6 に示す。

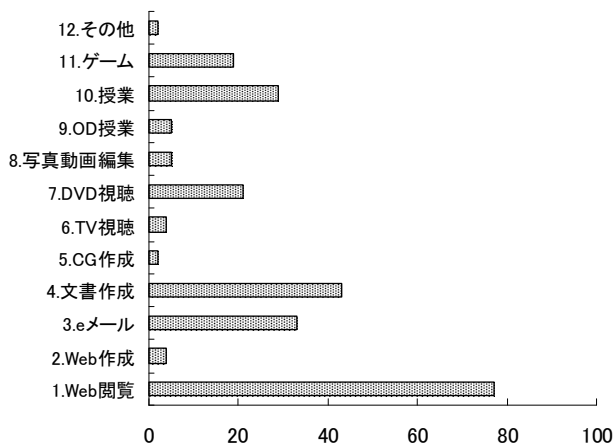


図 6 PC の利用目的

PC の主な利用目的として Web 閲覧が最も多くあげられている。このことから、オンデマンドセミナーを受講することに対してそれほど抵抗感を抱かないことが推測される。

自宅での PC 所有状況についての回答結果を図 7 に示す。

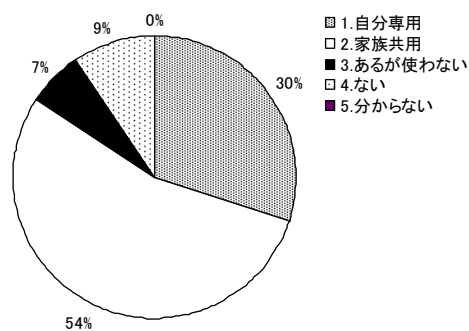


図 7 自宅での PC 所有状況

自分専用、家族共用を合わせると 84%に達する。このことから、ほとんどの家庭に PC が普及していることが再認識される。

自宅 PC のインターネット接続状況についての回答結果を図 8 に示す。

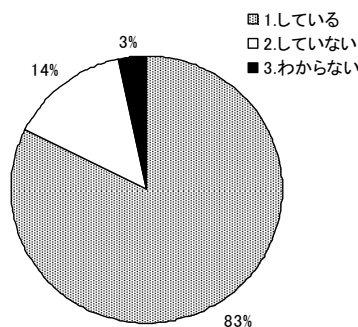


図 8 自宅での PC 接続状況

83%の家庭において PC がインターネットに接続していることがわかる。このことから、自宅でも受講可能なオンデマンドセミナーの需要はますます高まってくると推測される。

フォローアップセミナーの難易度についての回答結果を図 9 に示す。

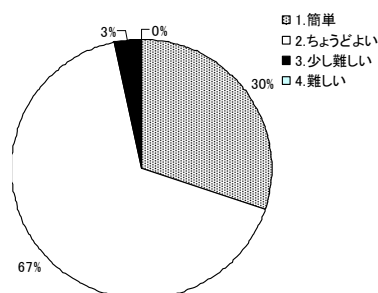


図 9 フォローアップセミナーの難易度

ちょうどよいという回答が 67%を占めている。フ

フォローアップセミナーの目的は、オンデマンドセミナーの内容理解やPCの操作に不安を覚えた学生に対して、オンデマンドセミナーの内容を分かりやすく説明することである。今回のアンケート調査結果を見る限り、フォローアップセミナーの本来の目的は果たせていたと考えられる。実際、自由記述による回答でも、フォローアップセミナーに対する満足感が示されている。

5. まとめと今後の課題

新入生セミナー受講後に実施されたアンケート調査の結果から、新入生セミナーの進行速度および内容自体は適切なものであったと考えられる。また、昨年実施したアンケート調査の結果と照らし合わせると、情報化社会の発展に伴うPCの普及率やその経験が年々高まってきていることがわかる。

2006年度から新入生セミナーの本格的オンデマンド化に着手したわけだが、受講者数の推移を確認する限り(図1)、過去2番目に低い受講者数を記録する結果となった。自宅へのPC普及率やインターネット接続状況を考慮すると、オンデマンドセミナーを受講する時間的余裕は十分にあったと考えられる。このような状態にも関わらず、過去2番目に低い受講率を記録したのは、オンデマンドという受講形態がまだ十分に浸透したことが原因であると推測される。また、もうひとつの理由として、いつでも受講可能であるため、ついつい後回しになってしまい、いつの間にか受講期間が終了しているという状態に陥っている可能性が考えられる。

各自の自宅には、オンデマンドセミナーを受講するのに十分なネット環境があることが確認されたので、今後はいかにして期間内の受講を促していくかが問題となってくるだろう。

来年以降もオンデマンドによる新入生セミナーを実施していくのであれば、セミナーの内容自体をより充実させていくことは勿論のこと、新入生セミナーの認知度をより高めていくようなアナウンス方法の考案にも着手する必要があると考えられる。また、ネット上でもアンケートを実施し、より多くのサンプルを収集していくことも今後の課題としてあげら

れる。フォローアップセミナーを受講した“初心者”からだけでなく、多くの人からの回答結果を分析することによって、今後より充実した新入生セミナーを実施していく必要があるだろう。

<引用文献>

- [1] 小野寺涼子・大鹿智基・秋岡明香：情報倫理教育に重点を置いた新入生コンピュータセミナーの実践，平成15年度情報処理教育研究集会講演論文集。
- [2] 松山響子・海老原崇・小泉大城：新入生を対象とした情報倫理教育，2005 PCカンファレンス論文集，pp. 328-329.